

絹が鳴る

絹が鳴る

【登場人物】

荒井村の娘
佐原村百姓
土湯村百姓
芸人
板倉藩藩士
猫神さま

おい
作兵衛
ひょう
らく
汰助
猫神
人買い

作
清野
和也

慶応二年（1866年）六月。荒井村の豪農・勘兵衛の家にて。
 平安の頃から信夫の地で生き続けているらしい化け猫が、この家に住みついている。彼？はこの家に仕える「おい」という女性から、蚕を襲うネズミ避けとして猫神さまと呼ばれている。おいが炊事洗濯、そして養蚕の仕事……。まるで糸をたぐるように、目まぐるしく働いている。その動きは、まるで音楽を奏でるようでもある。

猫神

人間暦・慶応二年。福島城下から西に向かった峠のふもと、荒井村の大きな屋敷がおいらの今の家！あるときは飼い猫として、あるときは野良猫として信夫福島点々と思うがままに移り住み、いつの間にやら千歳越えたこのおいら。ここに居着いたのは、「おいー！」

はい！

という娘っ子がいたからである。「おい」

はい！

いうのは、この娘の本当の名前ではない。「おい」

はい！

と呼ばれ、大急（おおい）、

はい！

急いで走ってくるこの娘は、「おい」

はい！

とだけ呼ばれていたのだ。（以下、「おい」のたびに返事をしながら娘は舞台のあちこちを動き回る）「おい」たわしや、「おい」ら、おいおい泣いちゃう。

おいたしたわけでも無いってのに、幼い頃に家を追い出され売られた負い目か、不幸な生い立ち追いやられ……。あ、そういや本日大入り御礼、なにか美味しいものでも大いになって、おいらが喋っちゃ「おい」は追い込まれちゃうね。ここいらでお暇しようか

あ！猫神様ー！ここにいたんだ

はいよ

ご飯、猫神様たちにお供えます

少な

ごめんね。これじゃあ猫神様、足りないよね

いやまあ、ネズミとか喰うけど

猫神さまをはじめとする猫の皆さんが、お蚕さまたちを守ってくれるおかげで、綺麗な糸が取れています。ありがとうございます

苦しゅうない！あ、余談ですが、猫ってのは人間の言葉はちゃんと解ってますよ。これはおいらが化け猫だからってわけじゃない。人間ってのが、猫の言葉を解らないだけでね？

・・・猫神様！

はいよ

私の名前ってなんて言うんでしょう

おい

猫神

おい

おい

猫神

おい

猫神

おい

猫神

猫神

猫神 つけてやろうか？
 猫神さまに聞いてもわからないか
 つけてやるって

打ちこわし衆が、おいの住む家にもやってくる。参加者のひとりの作兵衛が打ちこわし衆に呼びかけている。なお、作兵衛は村人の中で一番声がでかいからという理由でこの役回りを得ただけであり、一揆衆は、みな同列ということになっている。

作兵衛 やあやあ、者共！火の用心を第一にせよ！

猫神 なんだ、騒がしい

おい 来た。猫神様も隠れて、

米粒ひとつ打ち散らすな。質の物には決して手を懸けまじ、質は諸人（もろびと）の物なるぞ！金銭・品物、身につけるでない。良いか、此の働きは私欲にあらず、ただ万人のためなるぞ。家の道具は皆ことごとく打ち壊せ、猫のわんでも残すでないぞ！ 集まれエ！吠内（かますうち）のこの屋敷！ことごとく打ち壊せ！

おい 一揆衆の皆さま方、天下万人のため、ありがとうございます

作兵衛 娘、家の主を出せ

おい 旦那様はいにく、江戸に出ておりまして

作兵衛 隠してたらただじゃすまねえぞ

おい 旦那様から、一揆様がいらしたら丁重にもてなすようにと言われております。お上がりください。お酒も魚も握り飯も用意してあります。新しい足袋わらじもお持ちください。ほかにも、ご用の品がありましたら、ありがとうございます！

作兵衛、おいだけを残して勢いよくはける一揆衆

おい ・・・あの！

作兵衛 なんだ？

おい お蚕さまだけは持っていかないでください

作兵衛 ・・・旦那様がそう言ったのか？

おい いえ

作兵衛 義理立てすることはねえんだ。金になるものは全部

おい お願いします。芋汰、芋兵衛に芋江。みんなかわいい子ばかりです。お願いします！

作兵衛 待て、その、芋汰、芋兵衛に芋・・

おい 芋江です

作兵衛 芋江

おい どうか、ご勘弁を！

作兵衛 お前。お蚕さまに名前をつけてんのか？

おい はい、あ、待っててください！

おい退場。作兵衛、猫神を見つけて

作兵衛

・・・なんだ猫か

猫神

おいに手出したらその面、引っ掻いちゃうぞ

作兵衛

変な娘だな、ありゃ

猫神

いい子なんだって。変わってるけど

作兵衛

百姓はそりゃ、お蚕さまに食わしてもらってるが、名前をつけたなんて聞いたこと・・・。だって結局芋虫だぞ

猫神

うねうねしてるな、おいらもダメだわ。あれは喰えねえ

おい戻ってきて

おい

おまたせしました。芋汰、芋兵衛、芋江です

作兵衛

どいつが、芋兵衛だ？

おい

この子です。ほら、愛嬌ある顔してる

作兵衛

実は俺の名は作兵衛という。似ておるな

おい

まあ！どこかお顔立ちも似てる！

作兵衛

おい！

おい

はい！

作兵衛

・・・お前、名は？

おい

解らないんです。だからおいと呼ばれていて。でも、旦那様は知ってるって。

作兵衛

一生懸命働いたら教えてくれるって、だから

おい

・・・なあ、俺たちと一緒に来ないか？

作兵衛

え？

作兵衛

一揆衆はみんな百姓だ。金もねエ、力もねエ、おめえさんのように家も畑も

おい

ねえ水呑もいる。だがよ、おらたちは天下万民のために立ち上がったんだ！

作兵衛

そういう難しいことは

作兵衛

金があるというだけで、偉ぶる奴らがおらは好かねえ。なんでもかんでも、

作兵衛

税を取ろうとするお上もだ

おい

そんなこと言っっては！

作兵衛

世が変わるかもしれねえんだ。金原田村（かなはらだむら）の菅野八郎（か

おい

んのはちろう）さんが見てきた、異国のでっけえ黒船がきつと変えちまう

作兵衛

黒船？

作兵衛

十年も前のことだそうさ。さ、行こう

おい

でも何にも出来ねえんです。お蚕様育てるくらいしか、

作兵衛

お蚕様育てるの、好きか？

おい

はい。よく見ると一人ひとりが違う顔立ちをしている。ほら、この芋汰は優

作兵衛

しい顔を。ああ腹空かしておるね。もうちっと待ってね

作兵衛

・・・黒船が来てから、絹の値打ちが急に上がった。外国で売りに売れてる。

作兵衛

これからはもっと上がる。俺たち百姓の時代だ。お前の力も役に立つ。さあ、

おい
こんなところにいることはねえ。行くぞ
この家から逃げ出すってことですか？

作兵衛
そうだ

おい
でもそのあとどうすれば

作兵衛
逃げてから決める。死ぬまでこの家で飼われ、使われ、死ぬだけか！それとも、好きなように生きるのか！

おい
・・・お蚕さまたち、空、飛べますかね？

作兵衛
・・・？

おい
綺麗な繭作ったあと。そこから出てくるお蚕様には羽が生えるって。見たことないんです。その前に天日でみんな死んでしまうから。この子たちもみんな。仕方ないです、仕方ないんですが

作兵衛
羽化したあとのことを、知らねえのか？今まで一度も？

おい
旦那様に絶対にさせるなって言われてますから。卵はうちじゃ、買い付けですし

作兵衛
・・・それを見てもみるのも良い。さあ、行くか行かぬか己で決めろ！

おい
自分で

作兵衛
・・・者共！次に行く！次に行くぞ！

おい
あの！話聞いてくれて

作兵衛
やあやあ者共！火の用心を第一にせよ。此の働きは私欲にあらず、ただ万人のためなるぞ！

おい
あの

作兵衛
・・・さあ！この手を取れ

おい
！・・・はい！

作兵衛
（おいに）走る！決してこの手を離すなよ！

その日の夜。同じくおいの住む豪農の家。

猫神

この信達の打ちこわしは世直し一揆とも言われた。ことの発端は、江戸幕府が蚕の卵と生糸の出荷に新しい税金をかけようとしたこと。信夫と伊達の百姓たちが反発した。首謀の村を解らなくするため、円状に村の連名を連ねた。蚕を育てるための「わらだ」の形をした、わらだ状である！

少し前の時代であれば鎮圧されていたであろうこの一揆は、力を失っていた幕府、そして地方の藩にはもはやどうすることもできなかつた。いわゆる幕府崩壊の序章であつた・・・！

あーあ、どうやらおいらもおいに置いていかれたらしい。この家の奴らは、おいを除けば嫌なやつばかり。昼寝して、夜になつたから、どこかに引越そうかと思つていた矢先のこと

とほとほと、たくさんの蚕の葉を背負つておいが帰ってくる

おい

猫神様。

猫神

おい

猫神

おい

猫神

おい

猫神

なんだ戻ってきたのか。こんな家離れば良かったのに

・ ・ ・ 手、離しちゃった、手、すぐに。申し訳ねえことしたなあ。

冴えない男だったしな

手汗がすぐくて

そりゃ仕方ない

仕方ない、仕方ない。なにより、お蚕様のことが気になっちゃって。 ・ ・ ・ や

っぱりここの家の人、ご飯くれなかったんだね。ごめんね

・ ・ ・

蚕たちが桑を食べる音だけが響いている

おい

美味しい？ たくさん食べてね。たくさん食べて、そうして、きれいな糸吐いて。そうして。ごめんね。ごめんね、だけど、私もおんなじだから、どうか許してね。私だけ逃げるなんてことはしないから。

なおも、蚕たちが桑を食べる音だけが響いている。 暗転

慶応四年（1868年）。早朝。同じく荒井村勤兵衛の家にて。遠くから砲撃の音が聞こえる。

猫神

なんだなんだ、昼間っからうるさい、昼寝もろくに出来やしないと、音の正確かめにフラフラ出歩いてみたわけだ。人間暦・慶応四年。見れば土湯口にて人間同士が筒打ち合ってる。なるほど、これは戊辰戦争ってやつに違いない。おいらたち猫界隈でも江戸に薩長の猫が入りこんで。ちょっとした猫騒動が起こってるって噂だ。

幕府側の会津、新政府軍の仙台。おかしなことにこの戦争の銃口の先は空を向く。互いに空砲撃ち合うだけの戊辰唯一の八百長戦争、土湯口の戦い！新政府の奴らに言われて、イヤイヤ同じ東北の仲間を攻めた仙台藩！もとより争う気などなかったらしい！おお、なんだか楽しいくらいだ。・・・だがまあ、そううまくいくばかりじゃない。福岡藩士が「なんばしよつとか、ぬけさく！はらかいたー、まどろーしか、会津のタマ、とつとつとー！」と発砲。ああ、こういうときはさつさと家に帰るのが吉！

おいの蚕小屋の前にて。傷をおったひょうが家の前で倒れる。

猫神

お！？ おいおいおいおい、おーいー！！

おい どうしたの猫神様？（ひょうを見つけて）大丈夫ですか！

ひょう ……ああ

おい いま、家の人を

ひょう いや、いい！

おい でも、怪我を・・・！

ひょう ……あんた、この家に仕えてんのか？

おい はい・・・

ひょう この傷が癒えるまでで良い。匿ってくれないか

おい 旦那様に、

ひょう 大事にはしたくない。どこだって構わない、頼む

おい ……こちらに

猫神 大丈夫かねえ、おい

蚕小屋に案内するおい

おい ここには私以外は寄り付きません

ひょう お蚕さまか。見事なもんだ

おい わかるんですか！可愛いでしょう！

ひょう そうだね。ああ

おい ……そのお怪我は？

ひょう 今、土湯口で仙台と會津が戦ってるのは知ってるね？

おい おなじ東北なの？
 ひょう そんなことも知らないのかい
 おい こうやって、蚕を育ててるだけですから
 ひょう あんたも飼われてるみたいだ
 おい 一度、逃げたことがありますか？
 ひょう 出てきたことあるよ。外の人と話すことも禁じられて。だから、こうして人と話すのだって久しぶりで
 ひょう かわいそうな子だ
 おい 嬉しくて。あなたさまと話せたこと
 ひょう さまなんてよしてくれ。あたしも百姓。土湯村の百姓、だった
 おい だった？
 ひょう もうやめだ
 おい え
 ひょう 百姓なんてもうやめた
 おい どうして
 ひょう 金も、食いものも、旦那も全部戦に持っていかれた。仙台に、新政府つての
 おい に
 ひょう でもまた戻ってくるでしょう？
 おい 死んだんだよ。旦那は
 おい あの、
 ひょう 西の奴らが許せない。絶対に一泡吹かせてやる！！（傷が痛む）
 おい 大丈夫ですか？
 ひょう 山の中で、野盗でもやろうかと思ってる！野盗の女頭、かっこいいだろ。ど
 おい うだ、あんたも、こんなところにいるくらいなら、一緒にやらねえか？
 おい いえ・・・
 ひょう 冗談だよ。なんの役にも立たなそうだしね
 おい お蚕さまは！お蚕さまは育てられます
 ひょう そりゃあ、良い
 おい あの。旦那さんはその、残念でしたけれど、他の家の人たちは
 ひょう 私がなくなったら立派に生きてけるやつらさ
 おい ・私、気がついたらひとりぼっちで、だから、もし
 ひょう そうかい
 おい あの
 ひょう 言わなくなつて解ってる。解ってる！！
 おい あの
 ひょう 解ってるって！
 おい 誰か来ます！
 ひょう 早く言わないか！

隠れるひょう

おい ここには誰もいませんー！
 作兵衛 おめがいるじゃないか
 おい いません！・・・あ！芋兵衛さん
 作兵衛 作兵衛だ！少し痩せたか？
 おい あおのときは
 作兵衛 すぐに手を離れたな
 おい 手汗すごかったから、拭いたくて、そしたら、すぐに行っちゃうから
 作兵衛 離すなと言ったのに！
 おい ごめんなさい
 作兵衛 芋兵衛は元氣か？
 おい 死にました
 作兵衛 そうか、立派な糸を
 おい それが、うまく糸も出来なかったんです
 作兵衛 そうか
 おい すいません
 謝ることもないが。おい！もう一度、百姓が立ち上がる時が来たんだ。
 作兵衛 こうして知ってるモンに声かけて回っている！
 おい また打ちこわしですか？
 作兵衛 いや、今度は、奥羽鎮守府（おううちんじゅふ）さまにお願いする
 おい ？？？
 作兵衛 今は、蚕も稲も忙しい時期。こんなときに戦を起こされたんじゃ、みんな困
 作兵衛 るだろ。今は待って欲しいって、信達の百姓を集めて、訴えを起こす。千五
 おい 百は集まりそうだ！
 ひょう そんなに！
 作兵衛 その話ノッタ！
 おい お前は！？
 ひょう 西の野郎に恨みのあるもんだ
 作兵衛 土湯村の方です。この方は芋兵衛さん
 ひょう ひょうと言う
 作兵衛 作兵衛だ。共に行こう！すでに須川のほとりに集まり始めているはずだ
 ひょう ああ
 作兵衛 おい、今度はこの手を離すなよ！

すぐ離して

作兵衛 おい！
 おい あの！待ってください
 ひょう 行かないのかい？
 おい 今度はきちんと旦那様に話してみます
 作兵衛 何を？
 おい この家を出てくこと。そんでもって、お蚕さまの飼い方とかちゃんと伝えな

作兵衛

いと、またあの子たち腹空かしちまうから

そんなこと言ってる場合か

おい

そうしないと、また手離しちまう

作兵衛

俺が離さない！

おい

いや、作兵衛さん結構簡単に離すし

ひょう

・・・そうしな。・・・あんたとは、また会える気がするよ

おい

あの！ひょうさん、終わったたら絶対村に戻ってください。待っている人がいるのなら

ひょう

・・・ああ

作兵衛

行こう

作兵衛とひょう退場。

おい

・・・旦那様、旦那様！

おい退場。福島城目前の須川の河原にて、千五百人の百姓たちとともに訴えを行う作兵衛

作兵衛

信達惣百姓の名をもって、お願い申し上げる！国家泰平のため、西軍と共に朝敵・会津を征伐すること、まことにありがたい次第であるが、百姓はいま、田んぼと蚕の盛り！

汰助

百姓ども！これ以上、勝手な集会は許さん！

作兵衛

福島藩の方か！何も我々は逆らうつもりなどない！ただ戦をやめてほしいと言っているのだ！

汰助

黙れ！

作兵衛

さすれば、繭代金から献金もしよう。このまま戦を続けるのであれば、百姓は一人もいなくなる！それでも良いのか！！

汰助

良いわけがなからう。板倉様は、民を思うお方だ

作兵衛

ならば、この訴えを聞き入れて欲しい！

汰助

・・・それは難しくなった

作兵衛

なぜだ

汰助

つい先程、福島城下で『世良修蔵』が暗殺された

作兵衛

世良修蔵！

ひょう

誰だい、そりゃあ

作兵衛

西の参謀だ

汰助

殺ったのは仙台藩士！そして福島藩の目明し、浅草屋宇一郎

作兵衛

仙台が、東北が、西の奴らを裏切ったってことか！

汰助

この福島藩も、会津のため、西軍と戦う。この福島も戦場となるだろう。心

ひょう

してかかれ。以上だ

ひょう

ちよっと待ちなよ

汰助

なんだ

ひょう

あんた、仙台と会津は戦をしてたんだろ！！うちの旦那はそれに巻き込まれ

汰助
ひょう
て死んだんだ！！
気の毒なことだ

ひょう
汰助
我々は元より会津を助けてもらうため西に下ったのだ！！しかし、西はそれを受け入れようとしなさい！それ故に
偉い奴らの考えなんざ知らないよ。それじゃあ、うちの旦那はどうして死んだんだい！

汰助
ひょう
なんのために死んだんだ
・ ・ ・
・ ・ ・ 戦が起これば我々は命をかけてお前たちを守るために戦う覚悟だ
俺たちは福島藩の人間じゃない
どこの村の者たちだ

汰助
作兵衛
佐原村。幕府の領地だ
・ ・ ・ 西と戦うことになれば幕府は味方だ
またすぐに敵になるんだろう

汰助
作兵衛
ひょう
・ ・ ・ 百姓に罪はない。目の前にいれば救うのみだ
刀向けられても、鉄砲向けられても同じこと言えるのか
・ ・ ・

作兵衛、汰助を殴る

作兵衛
汰助
どうだ、これでも！同じことを言えるのか！！
そうありたいと思うのだ！ 誰も戦など起こしたくないんだ。仙台も、會津も、おそらく西軍の奴らもだ。だが、もう避けられない。お前たち、早く村に戻るんだ

汰助退場。ぼつりぼつりと雨が降り出す。人が少しずついなくなる。

猫神
おい
・ ・ ・ 蚕が桑の葉を食べる音っていうのはすごい音でね。雨の音にも似ています。おいが働く蚕小屋のまわりはいつだって雨みたいな音が鳴っていた。だが、ここ数日はこれが鳴り止んでいる。

猫神
おい
お願いします、お願いします！！ 桑を、桑を！ 誰か桑を入れてください！ このままじゃお蚕様たちが死んでしまいます
誰とも話すなどという約束を破ったおいは、旦那様に蚕小屋の中に閉じ込められてしまいました。猫一匹通る隙間もなく塞がれてしまい。おいが、蚕小屋の中でどんな顔をしているのか、おいらにも解りやしませんでした。

三場

数日後。人買いにおいが引き渡されている

猫神

それからしばらくして。おいは、ようやく蚕小屋から出ることが出来ました。この子の「買い手」が見つかったからだそう。おいはもはや、なんの抵抗もせず、

人買い

行くぞ

おい

あ

猫神

おいらを見つけて一言『あ』と。・・・猫神様と拝んでくれていたこの娘っ子が気になって、おいらも後ろからついていきました

二人と一匹は次第に山道に差し掛かる

人買い

おい！お前がこれから行くところ、知りたくねえか？・・・おい、黙ってん

おい

・・・

人買い

残念だけど死なせはしねえさ。死んだ方がマシかもしれないねえが！なに、すぐ慣れるさ。なんだったら、俺が今、慣らしてやろうか・・・！

猫神

おおお、おーい！！何しようってんだ！！おおい！無視すんなよ、無視！！

そこに、らくが現れて

らく

ちよいと待ちな

人買い

誰だ！

らく

おやおや、あたしだよ

人買い

なんだ、俺はお前みたいな芸人知らねえぞ！

らく

寂しいこと言うんじゃないよ。人間なんぞ、みな、兄弟みたいなもんじゃな

人買い

いか

らく

何の用だ！俺はこれから、お楽しみなんだよ！

人買い

あら、そうかい。どんな楽しみかは知らねえが、遊び事にヤアこのアタシ、

人買い

首突っ込まねエワケにはいかないねえ・・・！！

らく

なんだ一緒に混ざろうってか！残念、こいつは商品だ。そうそう触れさせる

人買い

わけには

らく

らく、人買いを抱きしめる

らく

・・・はい、ごちそうさま（人買いを短刀で刺している）

人買い

貴様！

人買いがらくに襲いかかるが、舞いながら簡単に避ける。らく、圧倒的に強い。

らく 命が惜しければ、有り金ぜんぶ置いてきな
らく 人買い
らく 人買い
らく 失礼なこと言っただけじゃないよ。あたしらは、義賊さ。お前らのような悪党
らく 共から金を巻き上げ、理想の天下を作るのさ！！もつとだよ！持ち物全部！
らく 服全部！ほれ、脱ぎな、脱ぎな！
らく 人買い
らく くそ、覚えてろ！！
らく あり、儲けた、儲けた
らく ・・・
らく ・・・
らく おい、あんた。名は？
らく ・・・
らく ・・・
らく ぼーっとしてんじゃないよ！助けてやったんだから！返事しな
らく おい、と呼ばれていました
らく そりゃあ、名じゃないよ
らく 本当の名は・・・本当の名はもう知りません
らく そうか
らく その名を唯一知る人から、売られてきました
らく 名無しならあたしと一緒にだ。だからあたしは己に、名をつけた。らくってん
らく だ。よろしく
らく ・・・
らく ・・・
らく さ、さっさと帰りな
らく 帰るところはありません。どうすれば良いんでしょう！大切なお蚕さまたち
らく も、みんな死んでしまいました！！生きる場所がありません！！
らく なら死ぬ？
らく ・・・
らく ・・・
らく それもまた良し。そうじゃないなら、付いて来なよ。天下に轟く予定の義賊
らく に案内したげる
らく 義賊・・・？
らく おいと呼ばれる蚕の女。うちの女頭から聞いてたよ
らく もしかしてひょうさん！
らく ああ、そうさ。助けたのはたまたまだけどね
らく でも、私、何も出来ないんです。お蚕さまにも、ご飯を食べさせてあげられ
らく なくて、みんな、みんな死にました。一人ひとり、私の目の前で死んでいき
らく ました。最後の子ども私の手の中で、動かなくなりました。糸になることもな
らく く、ただ、ただ・・・！！
らく お蚕さまってのは羨ましいね。死ぬことに意味がある。死んだあとも、糸に
らく なって持て囃される。あたしは人間は、死んだあとも腐るだけサ。さあ、つ
らく いといで！
らく でも
らく その猫、あんたのかい？
らく 猫神様！

らく
おい
らく

神様なのかい？
お蚕さまを守ってくれる、
あんたが襲われそうになってたとき、その猫、必死に守ろうとしてたよ。神様に慕われてるなんて十分な力じゃないか。そっちの猫も、ついてくるかい？

らくに連れられおい退場

猫神

里に向かう道中、おいが聞いた話は驚くことばかり。なにより福島城が落ちたっつのは衝撃的だった。いつもこっそり魚をくれた、魚屋のおっちゃんは無事だろうか？

ひょうが率いる野盗団の根城にて。らくに連れられておいがやってくる

猫神

そうこう話を聞いてるうちに、たどり着いたは荒井の山中！

らく

ここがあたしたちの根城だよ

おい

ひょうさん！

ひょう

久しぶりだねえ

おい

あの！らくさんに助けてもらって、

らく

売られる途中だったんだ。運が良かった

ひょう

人が人を売るなんざ酷い話だ。・・・良かった

おい

ひょうさん、元氣そうで

ひょう

あんたは少しやつれたかい

そこに作兵衛が現れて

作兵衛

お前、また身ぐるみ全部剥いできたのか！

らく

何が悪いってのよ！

作兵衛

それじゃあ、まるで野盗だと言ってるんだ

らく

悪いやつらから奪ったんだ、文句言われる筋合いは無いね

作兵衛

だからといって！

らく

あんたはいつも声だけデカイ。少しは働きな

ひょう

およし、らく

作兵衛

ああああ！！

おい

作兵衛さんもここに！

作兵衛

ひょうさんひとりでは頼りないから、ね

おい

それじゃあ、一揆衆のみなさんも

作兵衛

いやそういうわけでは

おい

そうなんですか？ あんなにたくさんいたのに

ひょう

こいつが一揆の一前にいたのは、一揆衆の中で声が一番デカかったからだ

そうだ

作兵衛

一揆衆はみな平等なんです

らく この男には気をつけなさい。甲斐性なしよ！
 作兵衛 なにを！！おいさんも入るのか！どうぞよろしく頼む！
 らく よろしく！
 ひょう 待ちな。・・・あんだどうしたいんだ
 おい どうしたい？
 ひょう そうさ。あんたが自分で決めな。あんたが入りたきゃ、この義賊団に、この
 国に入りや良い。
 おい 国？
 ひょう あたしたちは、ここに国を興そうと思っている！西の奴らが作る国ではない
 おい 新しい国を！！
 ひょう そんな大きなことを！でも、私、生まれてこの方、何も一人前に、
 らく あんた、蚕を育てられるんだらう
 おい そりや大事だ。上等な着物を織れる
 ひょう そんな、絹の着物なんて着るわけには
 らく そんな決まりはこの国には無いよ
 作兵衛 国と言っても見ての通りの人数しかない。人手はいくらあっても足りない
 ひょう この国じゃ、前の国でどうだったかなんて気にしない。それぞれが望みを持
 ち生きるんだ。
 おい ・ ・ ・あの、ひょうさんの家族のひとたちは
 ひょう 死んだ
 おい え？
 ひょう 土湯村は、会津に全部焼かれたよ。あたしの家ももう無い
 おい そんな
 らく あたしらみんな似た者同士ってことさ
 ひょう ・ ・ ・帰る場所、無いならここにいたって良い
 おい 仲間に入れてください。お願いします
 ひょう ああ、もちろんさ
 らく それじゃあ、名前つけなきゃ
 おい 名前？
 らく いつまでもおいじゃあ、ねえ
 ひょう そうだね。何か新しい名前を。作兵衛、なにか良い名前は
 作兵衛 明日まで時間を！とびっきりの名を
 おい ・ ・ ・ありがとうございます、ありがとうございます
 へたり込む、おい
 ひょう 大丈夫かい
 おい こんなにここが、平になったのは生まれて初めてかもしれない。・・・精一杯、お蚕さま育てます。皆さんのために、大切に大切に！
 らく 皆さんのためになんて言わなくて良いんだって

ひょう
 ここは己がどう生きたいか！それで良い！やりたいことを、やりたいようにやってみろ！
 おう

そこに汰助が現れて

汰助
 ずいぶんと盛り上がっているところ悪いが・・・近頃、山道を荒らしまわっ

ている野盗団とはお前たちのことだな

怪我しないうちに帰ったほうが良いよ、お待さん

・・・その男、どこかで

こっちはしかと覚えてる。その面、福島藩の奴だな

あの須川の訴えのときの者か

お待さんが、わざわざ野党退治か

・・・結局はなり損ないの野党共か。戊辰で男どもがいなくなったのを見計

らい、村々襲う悪行三昧！許しはせぬ・・・！大人しくしろ！

藩を越えて、わざわざ来るとは、侍ってのはよっぽどお暇らしい！

待て！！

何さ

何だその格好は！！

は？

・・・いや、良い！！野党退治の理由を話せば長い話！牢でたつぶり

手はず通り！

おう

義賊団、猿蟹合戦のような形で最初は汰助に健闘する。しかし、次第に汰助が力だねじ伏せていく。なお、汰助、戦いの最中もチラチラとひょうの方を見ている。薄着が気になる様子。戦いの最中、らくが叫ぶ

らく
 ・・・・ああ、お頭の服が！！

汰助
 ・・・・(ちら見)

らく
 間違いない。あんた、むつつりだね！！

汰助
 なにを！

らく
 やらしい！

一同
 やらしい！！

汰助
 そんなわけあるか！

作兵衛
 ああ！

汰助
 (ちら見) 何も無いではないか！！くそ、気が散る。ならば、いっそ、目を

瞑り！！

最終的に義賊団の勝利

汰助
ひょう

くそ！
ひとつ、言っておく。あたしらは、近頃流行りの悪徳僧侶だのと違い、決して弱いものから盗んだりはしない。そんなものと一緒にしないでほしいもんだ。ただし手を出したら容赦しない。藩に伝えるんだ、良いね。
・ ・ ・ 聞き及んでいた野党団とは姿形が違うとは思っていた。本物の野党は別にいるらしい。

汰助

そうよ

らく

・ ・ ・ だが、藩に伝えることは出来ん。俺はもう福島藩士ではない。脱藩したのだ。もう戻れやしない

おい

・ ・ ・ あの、ひょうさん

ひょう

なんだい

おい

この人もこの国に入れてあげちゃダメでしょうか

作兵衛

誰でも彼でもってわけじゃ

おい

この国じゃ、前の国でどうしてたかなんて、関係ないんでしょ

作兵衛

こいつがどうしたいかだ

おい

寂しそうに見えたんす

汰助

・ ・ ・ 私のどこが寂しそうだった？人をよく見る仕事でもしていたか

おい

私は、お蚕さまの顔ばかり見ていました。お蚕さまの寂しそうにしているとき

作兵衛

の姿に見えたから。死ぬ前の、お蚕さまの

汰助

ここははからずも戊辰が理由で追われた者たちが集っている。藩を越え、身分を越え

作兵衛

分を越え

汰助

・ ・ ・ しかし、

おい

らくさんはどう思いますか？

らく

そりゃ元侍が力貸すならいいんじゃない。どっちにしろ、このまま村に返そうとは思ってなかったしね。殺そうとは思ってたよ、あたしは

作兵衛

らく！

らく

そうだろ。戻って大勢で来られたらあつという間にこの国は無くなるよ

ひょう

・ ・ ・ 別の野党に負かされたなんて、村におちおち帰れないだろう。どうだい、野党捕らえるまでも良い。力を貸してみないか

猫神

うん、それじゃあ、二人も新しい仲間を迎えたところで・ ・ ・ 宴よ〜！！

らく

どんちゃん騒ぎは朝まで続く。夜行性のおいらとしては、賑やかな夜ほど楽しいものはない。はじめは少し緊張していたおいの顔も、次第に緩んでいった。酒を呑むと人間というのは変わる。笑い上戸に泣き上戸、語りた男も出てくるように

汰助

聞いてくれエ。どうか聞いてくれ！

らく

なによ！

汰助

俺は福島藩の藩士だったあ

らく

はい、出た、藩士〜！侍きらい。

汰助

我々福島藩は天子様のために戦おうとしていた！幕府のために戦う云われ

らく

我々福島藩は天子様のために戦おうとしていた！幕府のために戦う云われ

汰助

我々福島藩は天子様のために戦おうとしていた！幕府のために戦う云われ

らく

我々福島藩は天子様のために戦おうとしていた！幕府のために戦う云われ

汰助

我々福島藩は天子様のために戦おうとしていた！幕府のために戦う云われ

らく

我々福島藩は天子様のために戦おうとしていた！幕府のために戦う云われ

汰助

我々福島藩は天子様のために戦おうとしていた！幕府のために戦う云われ

らく

我々福島藩は天子様のために戦おうとしていた！幕府のために戦う云われ

汰助

我々福島藩は天子様のために戦おうとしていた！幕府のために戦う云われ

らく

我々福島藩は天子様のために戦おうとしていた！幕府のために戦う云われ

汰助

我々福島藩は天子様のために戦おうとしていた！幕府のために戦う云われ

らく

我々福島藩は天子様のために戦おうとしていた！幕府のために戦う云われ

汰助

我々福島藩は天子様のために戦おうとしていた！幕府のために戦う云われ

らく

我々福島藩は天子様のために戦おうとしていた！幕府のために戦う云われ

汰助

我々福島藩は天子様のために戦おうとしていた！幕府のために戦う云われ

などなかったんだ。だが、仙台、会津、米沢という力のある大藩に囲まれ、従うしかなかった！右往左往、振り回され！終いには、米沢街道での俺と板倉様との涙の別れ……！聞くと涙、語るも涙
 はいはいはいはい、かんぱーい！
 一同 かんぱーい！
 ひょう ひ、ふ、み、よ、よ、たった五人。出自も身分も違った五人。けれどそれは昔の話と忘れようじゃないか
 汰助 忘れる？
 らく ここに新しい国を起す
 作兵衛 西の奴らがつくる国と戦う！
 汰助 本気か？
 ひょう どっちにしろ、こんな野党団、ほっといちゃくれなだろ？戦わなきゃならなくなるよ
 作兵衛 奴らが戦を起さなければ、我ら百姓がこんなに苦しむことはなかった
 汰助 殿と別れることもなかった
 ひょう 村と、旦那を失った……誓いを立てようじゃないか
 ちようどい、そこに猫がいた。こいつを祀って誓おうじゃないか
 猫神様！
 らく えー、神様なの？ ちようどい
 猫神 ええ、なにに！！
 おい あの！苦しゅうないと言ってます
 猫神 え！
 作兵衛 解るのか！
 おい お酒、飲んだら解る気がします
 猫神 言ってねえよ！？
 ひょう ぴったりかもしれないね。根無し草。自由気ままに生きるこの国にや
 汰助 今のにやって言うのは、猫のマネか！！
 ひょう 黙らせて、こいつ
 汰助 じゃあ！！
 猫神 ほっといてくれよ
 おい 誓えと
 猫神 言ってねえって！
 ひょう いま、ここが、この土の上が新しい国。己が望みを持ち、身分も何も関係なく、その夢を必ず叶えよう……！そうだ。お前ら、持つてる西の国の銭全部出しな
 作兵衛 ええ！どうするんですか！
 ひょう 捨てちまうんだ。もう西には頼らずに生きる。らくたちが稼いだ銭があつても、その日で使い切る。銭には頼らない。猫神様に誓おうじゃないか！この誓いがやぶれるときは、この国がなくなるときだ

五人はなけなしの金を猫神にわたす

猫神 猫に小判、勝手にしてくれ。飯くれりや何でもいいよ、もう
 おい 猫神さまは、酒を欲しておられる！
 猫神 はははは！ 呑め、呑めエー……！
 猫神 やめ、やめ、やめろ……！

笑い合う五人。夜もふけて。皆が酔いつぶれて寝静まった頃。おいはひとり夜空を見ている。

おい 空なんて見たことなかったなあ……。何ができるんだろう
 作兵衛 おめにしか出来ないもんがある
 おい 起きてたんですか！
 作兵衛 きれいな空だな
 おい 何も出来ねんです。畑仕事だって、裁縫だってうまくできなかった
 作兵衛 隣の国から、買おうと思ってるものがある
 おい なんですか？
 作兵衛 蚕種紙（さんだねがみ）だ
 おい お蚕さまの卵！
 作兵衛 育ててみるといい
 おい ……
 作兵衛 糸を取るも良し。お前が見てみたいのなら、羽化させてみるも良い
 おい 作兵衛さんは、知ってんですか？ お蚕さまが繭から出ると、どんな姿してん
 のか
 作兵衛 ちようちよみみたいな形だ
 おい 大きな羽で飛ぶんだな。真っ白なちようちよが、自由に空を
 作兵衛 それは、
 おい 違うんですか？
 作兵衛 ただ、糸を吐くモノだと思っていた。お蚕さま。糸を取るためのモノだと。
 おい だけど、お前さんは違った。一人ひとり顔が違うなどと言った
 おい 本当のことだから
 作兵衛 一揆に集った人々の顔も、一人ひとり違った
 おい 当たり前だ
 作兵衛 そう、当たり前なんだ
 おい はじめて思った。作兵衛さんに会って
 作兵衛 何を？
 作兵衛 自分のこと、お蚕さまみたいだなあって。お蚕さまみたいに、閉じ込められ
 おい て、生きるだけの餌もらって、糸搾り取られて、最後は死ぬ。それも、しよ
 作兵衛 うがねえって思ってた
 作兵衛 そうならなかった。お前は自分で、そこから逃げ出した
 おい ……好いてるんだな
 作兵衛 え？
 おい うん、好いてる。そういうことだな

作兵衛　おい、
 お蚕さまのこと
 作兵衛　お蚕さまな
 おい　私も今、繭になってんのかな。繭から出てこれっかな。きれいな羽広げて、
 空飛べんのかな
 作兵衛　ああ
 おい　・ ・ ・
 作兵衛　あいな。蚕ってのは、羽化すると

作兵衛、おいに近づくと、おいは寝ている。作兵衛寝顔を見ている

作兵衛　寝たか
 らく　自分のことだと思った？好きだなんて
 作兵衛　起きてたのか
 らく　ひどい話だね。ちゃんと言ってあげなきゃ
 作兵衛　そのうち知れることだ
 らく　蚕って、繭から羽化したらすぐに死ぬじゃん
 作兵衛　ああ
 らく　この子が、今、繭としたら、すぐに死ぬ。その前に糸にしてあげたほうが
 作兵衛　良いのかしら？
 らく　きっと、空を飛ぶ蚕も、
 らく　どんな国だって、雨は上から降る。蚕は飛ぶことは出来ずに地に這いつくば
 作兵衛　ったまま死ぬ。勘違いをさせちゃあならないよ
 らく　それが許される国にしようじゃないか。ここは。そうだろう
 作兵衛　良いこと教えてあげる。あんたたちは、戦で失ったものがあるかも
 らく　しれないけどね。あたしや、この娘は何も失っちゃいないよ。むしろ得たも
 のがある
 作兵衛　だからどうした
 らく　さあ
 作兵衛　なんだそれは
 らく　あたしは川原者。生まれた時から鼻つまみ者。この娘も同じ匂いがするんだ。
 作兵衛　あたしらとあんたらは、たぶん、違う
 らく　俺たち、百姓だって、武士から見りゃ違う
 作兵衛　そう、違う。お侍さんも違う、百姓も違う、その下の奴らもみんな違うよう
 らく　に生きてる。それを忘れちゃいけないってんだよ
 作兵衛　お前の話はわからん
 らく　学が無いから仕方ない
 作兵衛　俺にか
 らく　あたしにでしょ、トーゼン。蚕の卵、手に入るといいね
 作兵衛　・ ・ ・

翌朝。一番はやくおいが目覚めて、なにか出来ないかうろうろしている。ひょうが目覚めて

ひょう 早いね、おい

おい なにか出来ることないかと思って、

ひょう ・・・なあ、蚕の話し聞かせてみな蚕の？

ひょう そいつは得意なんだろ。あたしの家は蚕はやってなかった。どうやって育てるんだい。卵から・・・

おい えっと、紙の上の卵が、黒色からくすんだ青色になったら、間もなくお蚕さまが生まれてきます。生まれたばかりのお蚕さまは、毛が生えていて真っ黒で、まるでアリみたいです。このお蚕さまを、優しくはぎおとします。これが養蚕のはじまりです。こっから、2、3日すると動かなくなります。脱皮をして大きくなります。朝夕と2回のご飯が必要です。そこからまた二度脱皮をします

ひょう ほんと詳しいんだね、蚕のこと

おい それしか取り柄がないですから。はやくこの国でも始めたいですね探ってきてやろうか

お蚕さまは、山の中にはいねえんです。人が飼ってる虫だから

それじゃあ、どうやって手に入れるんだ？

作兵衛さんがなんとかしてくるって

作兵衛。この子の新しい名前は思いついたのかい？

ひょう まだ悩んでる

らく 好きなモノからつけりゃいいのよ。なんか無いのかい？

おい ・・・お蚕さま？

カイコ子か

頭が固い。もっと考えて

作兵衛 あー！おいで、良いです。おいって言葉の意味がただ、ひとを呼びつけるんじゃないかって、私の名前ってことにする。新しい意味をつくる。ここは新しい国ですから！

ひょう おいだね。わかったよ

おい はい、お頭！

ひょう 似合わないね、あんたには。ひょうで良いよ

ひょう ひょうさん

作兵衛 これからのことを話したい。作兵衛

旧幕府の残党は、蝦夷に逃げ込んだようですが、もはや風前の灯。日本は、薩長のものになりました。存在すら気づいていないであろうこの国を除けば！気づかれないうちに力をつけておくのが得策。汰助殿、武芸を指南して頂きたい。これしか人がいないのであれば、何かあったとき全員で立ち向かう必要があるう

承知

お頭は悪いが野良仕事を。

汰助

作兵衛

ひょう

おいも一緒にやろうじゃないか
はい

おい

あんたは何をする

汰助

声を生かして見張りだ

作兵衛

うってつけだな

作兵衛

らくは、

らく

下に降りてくるよ。稼いでくる

おい

稼ぐ？

らく

アタシは、舞手だからね。それで銭っコ貰ってくるの

ひょう

稼ぐ必要はない

らく

はいはい、わかってるよ

ひょう

悪い野郎の噂をすっかり聞いてきてくれよ

らく

ああ、もちろん。悪い奴らから奪うのは良いんだろ？

作兵衛

向こうの国では退治出来ない悪党をこっちの国で倒して回る。この国に入り

らく

たい人々も出てくるはず。大切な役目だ

らく

・・・お頭。その子、野良仕事なんてできんのかい？

おい

やります！やらせてください

ひょう

出来るようになるよ、すぐに

らく

いや、そうじゃなくて・・・。アタシに貸してくれないか？

おい

芸事やったことあるのかい？

らく

いえ、ちっとも

らく

顔キレイにぬぐって、それなりの服着せてやりや、良い具合になりそうな気がする。野良仕事には向かねえかもしれないが、動きは悪くない。芸事の道

らく

にいるんだ、見りや解るよ。ちよっと踊ってみな。アタシの言うように

おいに化粧をするらく。ひょう、おいに衣装を着せる。見違えるおい。らくの言うとおりに振りを踊り、次第に様になっていく。いつの間にか、お客さんに見せている程に。客席から、投銭が飛んでくる。一通り舞終わり。らくが銭を集めておいに渡す

らく

ほら。これ

おい

・・・はじめて、お金をいただきました

らく

はじめて？働いてたんじゃないのかい

おい

代わりに食べ物と寝床をもらってたから

らく

・・・よし、なんか美味しいモノでも食ってこう

おい

え、でも！西の国の

らく

あたしらが稼いだ銭だ。少しくらいは良いじゃねえか

おい

だめです！

らく

なんだい！

おい

これに頼らないって言ったのに

らく

ちよっとくらい

おい

だめです！

らく なんだよ、良いじゃないか！ なんか欲しいモノ無いのか？
 おい ありません
 らく 誰も怒りやしないよ。ほら、きれいな服だの、かんざしだの
 おい 帰りましよう、みんな待ってます！
 らく なんだいなんだい！ 人がせっかく親切で言っただ。はじめて稼いだ銭っ子、
 てめえで使わずにどうするのよ
 おい ごめんなさい、でも
 らく 稼いだ銭っこどうすんだい
 おい えっと、お地藏様にお供えます！
 らく はぁ・・・わかったよ。あたしが、貯めてた銭から買ってやる
 おい らくさん、昨晚、持つてるお金全部出したんじゃ・・・
 らく 踊る前に団子食ったろ
 おい らくさん！
 らく あれ、あたしが持ってた銭から出したやつだから
 おい えええ
 らく あんたも同じ罪だ
 おい そんな！
 らく 今更だろ。買ってやるよ。好きなもの言ってみな
 おい いただけません！
 らく ここまで言ったら、こっちもひげねえ！ さあ！ さあ、さあ、さあさあ！ 言っ
 らく てごらん！
 おい ・ ・ ・ なんでも、良いですか？
 らく おうとも
 おい ・ ・ ・ なら、お蚕さまをー
 らく そうくると思ったよ
 おい ああ、でもやっぱり良いです
 らく なんだい
 おい 作兵衛さんがなんとかしてくるって言ってたから
 らく ・ ・ ・ そうかい。そんなじゃ、戻るとするか
 おい らくさん！ 里に煙が！
 らく 急ぐよ！
 おい はい！

里が、ならず者たちに攻められている

らく 官軍の奴らか！
 ひょう いや、同じ盗賊らしい。ねぐらが欲しいんだと

攻めてきたのは、盗賊に身を落とした人買い

ひょう 楽勝だろ？

汰助 ああ。だが、ここまで誘い込む
ひょう どうして？
汰助 手頃な相手だ。実践訓練とする！

剣術の稽古をしながら、人買いたちを追い返す五人

人買い達

お、覚えてろ〜！

汰助 皆、筋は悪くない。たかが野党相手だが、大きな一歩だ。初防衛、だ！
らく 宴る??宴る??

汰助 その前に。戦が終われば、無事に終わったことを感謝する
作兵衛 感謝?何にだ

汰助 どうぞ猫神様にだ

猫神 あ、どうも

汰助 猫神様に！礼！

猫神 なんか恥ずかしいな、これ

おい あ！わらわの加護がある限りお主らは負けぬと

猫神 恥ずかしいって

汰助 猫神様の加護。そして、五人がこの国のことを思っている。それが何よりの
ひょう 力だ。生きる人々に上も下も無い世だ

西の国には、まだ侍も百姓も町人も、穢多も非人も身分の差ってもんがある
ひょう だろ。ここにはそれが無い！それこそ肝心要だ！

四場

猫神

さて、おいたちが国作りをしている間にも、戊辰戦争は刻々と進んでいった！が、おいたちにはまったく影響を与えないので、一息でお届けします！
明治元年8月会津藩降伏！二日後、庄内藩降伏！旧幕府軍残党、下総（しもふさ）の国にて敗北！十月、榎本武揚ら、函館五稜郭を占領、蝦夷共和国建国！しかし、明治2年5月18日、元・新選組副長土方歳三戦死！榎本武揚らは新政府軍に降伏し、戊辰戦争終結！

といった情報を、おいたちはなんとなく、里に降りたときに噂で聞いて、なんとなく、驚いたり、なんとなく深刻な話っぽい雰囲気でも聞いたりもしていましたが、まあ、もはや他人事のようになっていました。

さて！荒井に話は戻りまして。猫の手も借りたい新政府に、ひょうたちが作った国にかまっている暇などなく、というか、たった五人が勝手に盛り上がった国は、当時の人々にも止められず・・・案内生活もうまくいってしまった。食料は主にそばである。

ひょう

猫神

ここには悪い代官も、米を納めるお上もない
山の幸も豊富にあり、狩りも出来る。なにかあったときの薬は汰助がこしらえ、そばから酒もつくれるようになった。暇なときは、歌い、踊り、空を見る。暑い時には荒川へ水浴びに行き、寒いときには身を寄せ合う
ひょうさん何をしてるんですか？

おい

ひょう

おい

ひょう

おい

ひょう

おい

ひょう

おい

あの、私にも教えてください！
せっかくだから模様にしてやって縫うんだ。思いを込めて、こうやってはい！（すぐに指を針でさしてしまい）痛っ
まったく本当にあんたは不器用だ
えへへ・・・
（声のみ）おい、こっち来てくれ
あ、はい！ひょうさん、続きちゃんと教えてください
わかったよ

おいが退場し、微笑んでいるひょう

猫神

ひょう

猫神

作兵衛

ひょう

作兵衛

ひょう

作兵衛

ひょう

無いものも多いが、生きることはできていた

（ふと気づいたように）本当にこれでいいのだろうか
そうこうしているうちに、話は明治四年に移り変わる！

（怪我をして出てきて）お頭、

大丈夫かい作兵衛！？ ついに敵か！

いや、熊だ！

また熊か！

里に入る前に追い払うことが出来たが。汰助はいないのか？ あいつの薬を朝から見えないんだ

そこにおいとらくが村の巡業を終えて戻ってくる

らく お頭！ 汰助はいるかいー！！

作兵衛 それが、どこにもいないんだ

ひょう どうしたんだい

らく おいの奴、熱があるんだ。フラフラしてたから、おかしいと思ったら

ひょう 大丈夫かい

おい 大丈夫です、これくらいなんとも

ひょう ひどい熱だ。奥で休んでな

らく そうじゃないよ。医者に見せに行く

ひょう 医者に

らく こりゃ、ただの熱じゃない

作兵衛 待て、医者なんてどこにいるんだ

らく 里降りりやいるだろ。今日の稼ぎだけじゃ、足りなそうだ。汰助から金を借

りる。あいつがたくさん溜め込んでるのは知ってるだろ。本人は隠してるつ

もりみたいだが、

作兵衛 ・・・西の医者に見せるのか

らく そうだよ。いないならあとから言うよ。隠し場所は知ってるんだ、拝借する

作兵衛 待て、まずゆっくり休ませるんだ。本当にマズイようなら

らく あたしはね、あんたらと違ってずっと河原者で生きてきてる。マズイ病とそ

うじゃないのなんて解る。これはマズイやつだ

らく、奥にはけて汰助の金の隠し場所を探す

作兵衛 お頭、

ひょう とりあえず汰助を待ってみて、効く薬もあるかもしれない

作兵衛 ・・・近頃、脱藩藩士の取り締まりが厳しくなっているって話です。特に西

軍に逆らった藩への追求は厳しい。もしかすると汰助も、

ひょう 本当かい・・・！？

作兵衛 汰助から足がついたら・・・。こんなときに町に下りるのは・・・医者にこ

ひょう の里のことを知られたらマズイことになるかもしれない。

ひょう だけど

らく戻ってきて

らく ・・・そうだ。汰助の福島藩ね、なくなったそうだよ

作兵衛 なくなつた？

らく 福島県になつた

作兵衛 けんつてのは？

らく 藩は廃止。すべて、県とかそういう呼び名になつたそうだ

ひょう

どういうことだい

らく

国が変わってるんだよ。西の奴らも、上も下も無い世を作ろうしているらしい

作兵衛

そんなこと！あれだけ偉ぶってる奴らだ。形だけだろう！

らく

少なくともアンタらが憎んでた時代ってのと、今は大きく変わってきたってことだ

作兵衛

だからどうした

らく

汰助は、戻ってこないかもしれないね。金、無くなってたよ

作兵衛

どうして

らく

汰助もこの国を抜けたってことだろ。・・・おいとあたしもこの国を抜ける

おい

らく、さん

らく

あたしもサ、西の新しい国じゃ身分がもらえるらしい。穢多やら、非人やら

作兵衛

も、平民ってやつになるらしい。あんたらと一緒に身分さ

らく

そんなにうまくいくとは思えない、きつと戻ったところで

作兵衛

もっと酷い目にあうかもしれない。そんなのわかっているよ。国のやり方が変わったところで、生きてる人間が変わらなきゃ何も変わりやしない。この国

らく

でよくわかった

作兵衛

何を！

らく

国づくりごっこはじめてどれくらいになる？何が変わった。最近じゃ、義賊

ひょう

ごっこもやめちまった！

らく

食うものが作れるようになったんだ。別に盗る必要はない

らく

元々この国、あってないようなもんだろ。そんな国にしがみついて、誓いな

おい

んてくだらねえもん守ってんだろ。仲間の病も治さないようじゃ！

らく

らくさん。汰助さん、探しに行きましょう

おい

何言ってるんだい、おい

らく

捕まっちゃったのかもしれないなら

おい

あいつはこの国を捨てたんだよ

らく

そんなことないです、そんなこと。私は大丈夫です。大丈夫ですから・・・

おい

あんたその体どうすんだい

らく

猫神様をお願いします。ねえ、ひょうさん

おい

・・・おい。さよならだ。生きてりやいつか逢うこともあるだろう

らく

らく退場

らく退場

ひょう

作兵衛、汰助はどこに捕らえられているんだい？

作兵衛

可能性があるとすれば、腰ノ浜村ですが、

ひょう

おいの言う通りにしよう。汰助ならおいの病だってなんとかしてくれるかも

おい

しれない

ひょう

行きます、

おい

無理するんじゃない

ひょう

ひとりである方が不安です

ひょう

・・・行くよ

村に降りていく三人。すっかり様変わりをしている福島の中

猫神

五年ぶりに降りた村！江戸が終わり明治になった村々は、すっかり様変わりをしていた！ちょんまげ落とした男たちは寂しくなった頭を隠すため帽子をかぶる。ガス灯灯り、人力車に馬車が通る、牛鍋を食らう！

ひょう

ぼさつとしてんじやないよ！牢屋を襲う！

牢獄を襲う三人。汰助を探している

猫神

明治4年。福島藩町奉行の管轄下にあった牢屋が、農民の暴動により焼失！同年南裏に徒場囚獄（とじょうしゅうごく）として新築されることになる。これが、後の福島監獄となる！

そこに汰助が現れる

汰助

なにをしているんだ！！お前たちは・・・！！

作兵衛

汰助！

汰助

お前たちがやったのか！

作兵衛

なんで牢の中にいねえんだ

汰助

捕まったわけではないからだ

作兵衛

どういうことだ

汰助

・・・俺たちの国は終わりだ。みんな

作兵衛

なにを言ってやがる！！

汰助

このまま、おとなしく、それぞれの元の場所に帰るんだ。早く、

作兵衛

気でも触れたか

汰助

そうかもしれない。ふれていたかもしれない！！この数年！！頼む。俺の言うことを聞いてくれ

刀を抜く汰助

ひょう

やめな！！話を聞こう。

汰助

福島藩がなくなると知って、俺は居ても立ってもいられなくなった。そうして、降りていった国は、江戸の国とは全く変わっていた。お前たちも見ただろ！！

作兵衛

だからどうした！！

汰助

だけどな。国は変わっても、生きてるひとたちがやっけることは何一つ変わっていないかった。畑を耕し・・・笑い合い。国が変わるほどの事件があっても、結局は・・・。なら、俺達は、どうしてこんな国を作ってるんだ？

作兵衛

西に勝つためだ！！

汰助 そうなのかな？

ひょう

作兵衛 お頭！はつきりさせようじゃないか。この国は、西の国を倒すための国、志士たちであると！！

汰助 ・ ・ ・ 本気か

作兵衛 もちろん！！

汰助 このままで叶うと思うか！？

作兵衛 いまは、力を蓄えるときだ

汰助 いつまで・ ・ ・！！いつまで力を貯める！？

作兵衛 ・ ・ ・

おい あのほんとうに、そのためなんですか・ ・ ・？西に勝つために、この国はあったんですか？

ひょう おい

作兵衛 そうだろうお頭！

汰助 だとすればあんな山中で暮らしていても！！

おい ひょうさん！！

ひょう ・ ・ ・

汰助 なんのために？俺たちは生きてきたんだ。なあ、ひょうさん

ひょう

汰助 福島藩の奴らと話した。今度、戸籍というものが作られる。どこに誰が住んでいるのか、すべて国が調べることになるそうだ。今なら間に合う。もとの場所に戻って生きないか！！

ひょう 汰助、頼みがある

汰助 ・ ・ ・ 言ってくれ

ひょう 金を貸して欲しい。お前の、西の金を

汰助 ・ ・ ・ どうしてだ

ひょう おいが、熱があるんだ。医者に見せたい

汰助 西の国の医者にか

ひょう ああ

汰助 良いんだな、それで

ひょう ・ ・ ・ ああ。

猫神 おいを医者に診せた後、四人は、根城に戻りました。ひょうは、その城に火をくべました。あつという間に炎に包まれていきました。

ひょう あたしは、あたしは西の奴らも、会津の奴らも、戦をした奴らも許せない。

恨みからこの国をつくった。いつときも忘れたことはない。ただね、あんたたちと一緒にいるうちに・ ・ ・

その火を眺める四人。らくもやってきて、その炎を無言で見ている。その手には金が入っているらしい袋が握りしめられている。小雨の音

ひょう みんな。ごめん。本当にごめん。だけど、あたしは、どうしてもき、おいの

おい

ひよう

おい

ひよう

おい

ひよう

お蚕さまの糸が見たくてさ。その糸で作った絹の着物着せてやりたくなくて
さ・・・。ごめんな。本当にごめんな。

ひようさん

お前たち。また、またいつか集まろう。それぞれに行き場所はあるかい。

ひようさん

あたしの子だ

え？

あんたはあたしの子として生きるんだ。そうして、見せてくれ白無垢の姿を

暗転

五場

猫神 それから、おいは、土湯村のひょうの家で暮らすことになりました。おいら

もそれにくつついて……

おい 猫神さま！

猫神 はいきたにやんとも

おい 猫神さまもお仕事です！

猫神 お仕事？

おい これ！

ひょう おい！

おい ひょうさん！ありがとうございます！

猫神 え、なに？

ひょう 私じゃないよ

おい え？

猫神 ねえ、なに、それ

ひょう まだそれを買付け金はない。どこから届いたんだ

おい どこかって？

ひょう さあね、契を交わした男でもいたんじゃないかい？

おい ……作兵衛さん！

猫神 ねえ、それって何！

ひょう なんか怒ってないかい？ 猫神

猫神 あ、ごめん！見て、猫神さま！ 蚕種紙。お蚕さまの卵……！

おい まったくどんだけ嬉しいんだか

ひょう ひょうさん！拾ってくれた恩返し！誰にも負けない、立派なお蚕さまつくり

ひょう ます！ 丈夫で綺麗な糸つくります

おい 恩返しなんて思わなくなっている

ひょう でも

ひょう 猫神さまも！あたしらが生きるために！しっかり働きな！

おい はい！

紙の上の卵が、黒色からくすんだ青色になったら、間もなくお蚕さまが生まれてきます。生まれたばかりのお蚕さまは、毛が生えていて真っ黒で、まるでアリのようです。このお蚕さまを、優しくはきおとします。これが養蚕のはじまりです。お蚕さまは、鳥やネズミなどいろんな動物に狙われます。そのとき！

おい うちの仕事だ！

猫神 ここから、2、3日すると動かなくなります。脱皮をして大きくなります。

おい 朝夕と2回のご飯が必要です。そこからまた二度脱皮をします。こうして透

かして、透明になってきたらそろそろ糸を吐く準備！

猫神 はいはいさー

おい 自分で部屋を見つけて、そこに繭をつくっていきます。

猫神 出来た繭は？

おい まず、天日に干して
 ひょう 沸かした湯に入れる
 おい ・ ・ ・
 ひょう おい、ぼーっとしてんじゃないよ！さあ糸を取って！
 おい はい！
 猫神 お蚕さまを育てるってのは、生き物相手のお仕事
 おい 寝る間も惜しんで働けと
 猫神 それは人間が生きたため
 おい 食う暇さいても三食世話しろと
 おい&猫神 それも人間が生きたため。春蚕（はるご）、夏蚕（なつご）、秋蚕（あきご）
 終われば、晩々秋蚕（ばんばんしゅうご）。冬は桑原（くわばら）手入れして、
 みなぎ織りしてまた春蚕！

勘兵衛の家と同じくお蚕さまを育てているのではあるが、おいは幸せ そうに見える。
 それからしばらくして。明治9年6月のこと。そこに志士の格好をした作兵衛が現れて

作兵衛 ひょうの家はここか！
 猫神 うるさいなあ、こっちは寝てんだよ！ってああああ！
 作兵衛 ああああ、猫神様！
 猫神 おい！！ おい！！
 おい どうしたの？猫神さま？
 作兵衛 おいさん
 おい ・ ・ ・ 作兵衛さん
 作兵衛 はい
 おい あの！！ 蚕種紙、ありがとうございます。作兵衛さんですよ
 作兵衛 ずいぶん遅くなってしまっ
 おい いいえ、見てください。こんな綺麗な糸が取れたんです。これを売ったお金
 作兵衛 でまた蚕種紙を買って、
 おい ・ ・ ・ ほんとうだ、とても綺麗です
 作兵衛さんは今なにを？
 おい 自由民権運動の志士です。まだまだ見習いですが。高野さまという師につい
 作兵衛 て学んでいます
 おい まだ戦っているんですね
 作兵衛 ええ。多分、一生そうするんだと思います
 おい そうですか
 作兵衛 あの ・ ・ ・ おいさん
 おい はい
 作兵衛 ずっと言おうと思っていたことがあって
 おい なんですしょう
 作兵衛 荒井の山の中に入ったときからずっと言えなかったことです
 おい はい！

ひよう

おい！おいー！

おい

ひようさん！

ひよう

・・・作兵衛かい！？

作兵衛

・・・はい

ひよう

あんた今、何してんだい

おい

自由民権運動の志士だそうです

ひよう

まだそんなことやってんのかい

作兵衛

そんなことって！

ひよう

今日はそれどころじゃないんだ。なにしてんだい、おい！

おい

今から、糸を売りに！

ひよう

そんな場合じゃないだろう！ そんな格好しないで、早く着替えな！

おい

でも、ひようさんが！

ひよう

あたしは、ちゃっっちゃと着替えられるからいいんだよ。

おい

そんなわけ、

ひよう

あんたは、何をやっても遅いんだ。あと、あと少し休みな。忙しい時期なのはわかるけど、最近ちつとも休めてないじゃないか

おい

それは

ひよう

作兵衛なんかに気を使うことないんだよ。そら。・・・おい。あんたのお蚕さ

作兵衛

またちでつくった白無垢、綺麗だったよ

ひよう

白無垢ウ！？

おい

早くしな、早く！

おい

あ、はい。作兵衛さんまたあとでゆっくり

作兵衛

・・・白無垢？ 誰と・・・

作兵衛

そこに、汰助があらわれて

作兵衛

おう、作兵衛。久しぶりだな

作兵衛

お前・・・おま、その格好

汰助

聞きつけて来てくれたのか！

作兵衛

お、おお・・・

汰助

いやあ、良かった！五人のうち、お前だけ連絡がつかなくてな！やっぱり五人は揃いたかったからな。あの里があったからこそのご縁だ。じゃあ、俺は準備があるから！

作兵衛

汰助退場

猫神

はははは！！

猫神

猫神イイ！！

猫神

猫神イイ！！

猫神

猫神イイ！！

猫神

猫神イイ！！

猫神

猫神イイ！！

猫神

猫神イイ！！

猫神

猫神イイ！！

猫神

猫神イイ！！

猫神

猫神イイ！！

猫神

猫神イイ！！

猫神

猫神イイ！！

猫神

猫神イイ！！

猫神

猫神イイ！！

猫神

猫神イイ！！

猫神

猫神イイ！！

猫神

猫神イイ！！

猫神 なんだよ、うるせえな

作兵衛 なんてことだ

猫神 あんた、勘違いしてるよ

作兵衛 くそおおお！！くそおおお！！！！あんな奴に！あんな奴にイ！！！！おいさあ
あああん！！

そこにおいが戻ってきて

おい はい！

作兵衛 はい、なにか？

おい いや、さっき何か言いかけていたのが気になって。ずっと言えなかったこと
って

作兵衛 ・・・・いや。蚕の話がしたくて

おい 蚕の

作兵衛 羽化しましたか。ずっとおいさんが見てみたかった

おい ・・・・何度か

作兵衛 ・・・・ごめんなさい

おい どうして謝るんですか？

作兵衛 ちゃんと飛べなかったでしょう

おい ええ

作兵衛 だから

おい ・・・・やっぱり私のこれまでは、お蚕さまの一生みたいです

作兵衛 そんなこと

おい 最後までそうありたいです

作兵衛 え・・・？

おい お蚕さまは死んで意味があるから羨ましい。どう思いますか？

作兵衛 どうって

おい らくさんに言われたんです。人間には死に意味がないって

作兵衛 そんなこと

おい そんなことないって、信じたいなって。わたしも、お蚕さまのように一本の

糸を吐いて・・・

ひょう (声) おい！

おい あ、はい！祝言、出席されるんですね。作兵衛さん

作兵衛 え、あ、うん

おい退場。そこにらくがやってきて

らく 作兵衛！！ついにこの日がきたんだな

作兵衛 らく！お前は知ってたのか・・・！！

らく なんのことだ

作兵衛 今日のことだ

らく 密書が届いただろう

作兵衛 密書・・・？

らく 祝言などと書いていたが、これは偽りの書

作兵衛 偽り・・・！？

らく まさかあの二人がくつつくわけないだろう・・・知っているか。今、木戸孝允が福島に来ている

作兵衛 木戸・・・桂小五郎か！

らく 今晚、浅草屋に泊まるらしい。その日にこうして俺達がまた集められた。お頭はやっぱり恨んでる

作兵衛 西をか

らく ああ。福島で木戸を倒す。もう一度、世をひっくりかえす

作兵衛 そういうことだったのか！

らく 汰助は福島の役人になっていたらしい。それも全てこの日のためだろう

作兵衛 らく。身分解放は言葉だけだった。むしろひどくなった。知ってたけどね。こたえる

作兵衛 そうか

らく それもこの日まで。ひょうは、お蚕さまでずいぶん金も蓄えたらしい

作兵衛 そうか！

らく やるよ、作兵衛！！

作兵衛 おう！

ひょう 何をやるんだい

らく お頭

ひょう やめな、その呼び方

らく これから始まるのに！

ひょう らく。バカなこと考えるんじゃないよ。今日行うのは！祝言だ！

作兵衛 うおおお

らく あんたらがやらないなら、あたしひとりでもやる

ひょう 本気かい

らく ああ。どうせ意味のない命

作兵衛 俺もその話に乗ろう！！もはや、意味のない命！！

ひょう 作兵衛、あんた！！

ひょう

そこにおいが現れて

おい 待ってください。らくさん

らく 止めないでくれ、おい

おい 作兵衛さん！

作兵衛 生きる希望を失った！

らく あたしはね、おい。世界を変えられるなら死んでもいい

おい らくさん。私も、どこかでそう思っています

らく そうかい

おい
らく
おい
作兵衛
おい
作兵衛
どうして！
祝言をあげるって！
俺は、今日がその日なんだ！！！！
ねえ作兵衛さん

作兵衛、まさか俺のこと？
馬鹿野郎！

らくさん、作兵衛さん。やっぱり人間ってお蚕さまみたいですよ。少しずつ大きくなつて、糸を吐き、死ぬ……。ひとりひとりが作る糸は細いかも知れない、でもその糸が束になれば命が巡る。でも二人にとってそれは今じゃない。今はまだそのときじゃない
なんで今じゃないと言えるんだ
らくさんの体が透き通って見えないから
なにをバカなこと言ってるんだい
ほんとです。お天道さまに透かしてみたとき、まだまだお日さまの色をしているから！透き通ってないから
わけがわかんないよ
お蚕さまは糸を吐くとき、体が空っぽになって透けるようになって、そうして吐くんです。らくさんの体は、作兵衛さんの体は、まだ透き通っていない。生きて生きて生き抜いて、ぜんぶこの世に出し切って。そうして体が透き通って、糸を吐いて、死にましよう！！

おい、急に倒れる

らく
おい・・・！ 大丈夫かい！ おい！！
ひどい熱だ。医者！！ 医者を・・・！！
お、おう。誰か呼びに
汰助！！呼んできな！！
ええ、俺、結婚するんだぞ！！
あたしもだよ！！いいから！！
わかった・・・！！！！
おいは、その日から茹で上がるほどの高熱で三日三晩うなされました

おいが高熱の中で夢を見ている。里がなくなった日のことを

ひょう
おい
ひょう
おい
ひょう
お前たち。また、またいつか集まろう。それぞれに行き場所はあるかい
ひょうさん

ひょう あたしの子だ
 おい え？
 ひょう あんたはあたしの子として生きるんだ。そうして、見せてくれ白無垢の姿を
 おい ありがとう。生まれてきて良かった
 猫神 そうして、とても、あっけなく最後を迎えました

おい、猫神退場。手を合わせるらく

らく それが最後の言葉だったのかい・・・？
 ひょう いや、そのあと蚕の飼い方についてあたしに、とうとうと説くんだ。書き留
 めると言うし。

全部書いてある。読むか？

汰助 いやいい。あの子らしいね

らく ああ。最後までお蚕さまのことだったね

ひょう ・・・猫神さまの姿が見えないが

汰助 一緒にどこかに行っちゃまってな

ひょう もしかすると、あの子も神さまになっちゃったりしてね。蚕のね

らく ありえるね！ 神さまになっても世話してそうだけど

ひょう あんた結局諦めたのかい？ 西を倒すってのは？

らく ・・・おいが言ってたこと嘘じゃなかったかもしれないと思ってさ

ひょう え・・・？

らく あの子の体、倒れる寸前、透き通って見えた気がしたんだ

ひょう そうかい

らく あたしはまだそこまで必死に生きてなかった

ひょう どれももうひとふんばり生きてみるかい

らく はい

汰助 ああ

暗転

六場

明治32年（1899年）7月15日、福島駅前にて。この日は、日本銀行の福島出張所の開設日である。群衆が出張所に現金が運び込まれるのを待っている

作兵衛 ひょうさん、ひょうさん。105万！来るらしいですよ、そろそろ

ひょう それ見に来たんだろ、騒ぐんじゃないよ

作兵衛 100銭で1円、1円が1万集まって1万、その一万が百五集まってる。．．．

ひょう いっぱいだな

ひょう いっぱいだね

作兵衛 相変わらずデカイ声だな

汰助！ 今日も仕事か？

汰助！ 今日、今日は、歴史的な日だからな。駅前これだけの人が集っているのを

見たことがあるか？

作兵衛 百五万を見に！

汰助 東北で一番はじめに日本銀行の出張所が出来るんだ。この福島が東北の金融

の中心地として認められたということだ

作兵衛 大藩に囲まれ、右往左往していた、この福島にね

汰助 作兵衛さんたち民権運動の志士の皆さんの力、そしてお蚕さまのおかげだ

作兵衛 お蚕さまの、

汰助 藩を越え一揆を起こしたここいらの、信達の百姓たちの蚕が、糸が、海外で

高く売れ莫大な金となり、今では国を動かしている。軍艦すら作っているそ

うだ

作兵衛 むしり取られるだけだったこの村が、新政府の野郎どもを食わせてやってる

わけだ

ひょう ・ ・ ・ あたしはね、あれから戊辰の戦についてずっと考えてた。あれを招い

たのは、銭なんじゃないかって思えてきた

そこらしくが現れ

らく だけど銭が無けりゃ生きられない

作兵衛 お前も来たのか

らく あの子が生きた結果を見に

汰助 みんな同じ思いだ

ひょう あの子だけじゃないさ。この村の奴らと、お蚕さまが、薩長の奴らを見返し

てやった。なにも持たなかった私らが

汰助 良いことじゃねえか。どうしてそんなに険しい顔をしてるんだ

ひょう 外国に絹売って、銭儲けて、軍艦買って、そうしてこれから、どうなるんだ

い。この先は

作兵衛

来るみたいですよ、ひょうさん

ひょう

一〇五万

作兵衛

・・・どうなるんでしょうね。少なくともおいが望んだ世にはならないのか
もしれない

らく

あの子は望んじやいなかった。戊辰があっても、すべてが変わったその後も。

ただ、精一杯に生きて、生きて、死んだ。そういう細い糸のような人間が束
になって、この世は変わってきたんだ。きつと

ひょう

・・・心残りがあるのはね、生きてるうちに、あの子にお蚕さまの絹の衣を
着せてやりたかった

汰助

おおお、来るぞ！この街が、俺たちの小さかった村が、日本に、奥羽に、薩
長に認められた証の、一〇五万の馬車だ！

赤い旗を立てた十数台の馬車に積まれた現金箱が運び込まれていく。それを見送る四人。一
斉に別の方向に歩き出す。白装束のおいと猫神が出てくる。猫神が先導するように先を行き、
おいがそれを追う。最初はひとつだけだった絹鳴りの音は重なり大きくなり音楽に変わる。
劇終。